

令和4年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市教育委員会

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

令和4年4月19日(火)

4 調査の内容

| | | |
|---------------------------|--|---|
| (国語、算数・数学・理科) 教科に関する調査 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校調査は、国語，算数，理科とし、中学校調査は、国語，数学，理科とする。 ・ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。 | |
| | 【小学校 国語・算数・理科 各45分】 | |
| | 【中学校 国語・数学・理科 各50分】 | |
| 生活習慣や学習環境等 に関する質問紙調査 | 児童生徒に対する調査 | 学校に対する調査 |
| | 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況 など | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など |
| 【小学校・中学校とも20分程度】 | | |

桶川市の調査結果の概況

小学校

<教科に関する調査> は全国平均正答率を上回ったもの

| 国語 | | | | |
|-----------------|-----|----------------|---------------|----------------|
| 学習指導要領の領域等 | 設問数 | 本市平均正答率 (%) | 県平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 5 | 69.2 | 70.4 | 69.0 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 1 | 85.5 | 80.7 | 77.9 |
| 話すこと・聞くこと | 2 | 67.9 | 68.1 | 66.2 |
| 書くこと | 2 | 49.2 | 49.7 | 48.5 |
| 読むこと | 4 | 69.8 | 68.2 | 66.6 |

| 算数 | | | | |
|-----------|-----|----------------|---------------|----------------|
| 学習指導要領の領域 | 設問数 | 本市平均正答率 (%) | 県平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
| 数と計算 | 6 | 68.2 | 69.9 | 69.8 |
| 図形 | 4 | 64.7 | 64.5 | 64.0 |
| 変化と関係 | 4 | 51.8 | 51.8 | 51.3 |
| データの活用 | 3 | 68.5 | 69.2 | 68.7 |

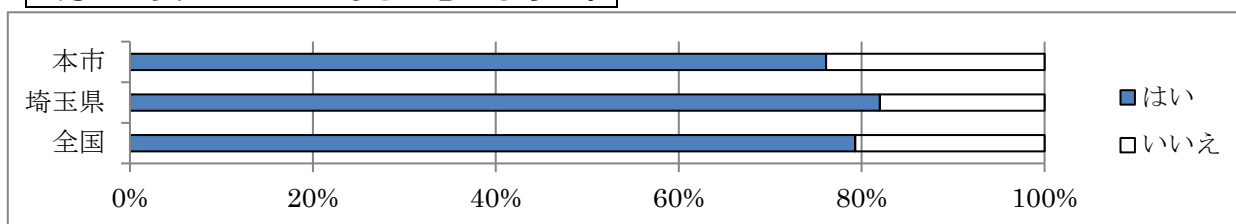
| 理科 | | | | |
|----------------|-----|----------------|---------------|----------------|
| 学習指導要領の領域 | 設問数 | 本市平均正答率 (%) | 県平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 4 | 50.3 | 52.5 | 51.6 |
| 「粒子」を柱とする領域 | 5 | 62.7 | 61.6 | 60.4 |
| 「生命」を柱とする領域 | 5 | 76.6 | 76.7 | 75.0 |
| 「地球」を柱とする領域 | 5 | 64.1 | 65.3 | 64.6 |

＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

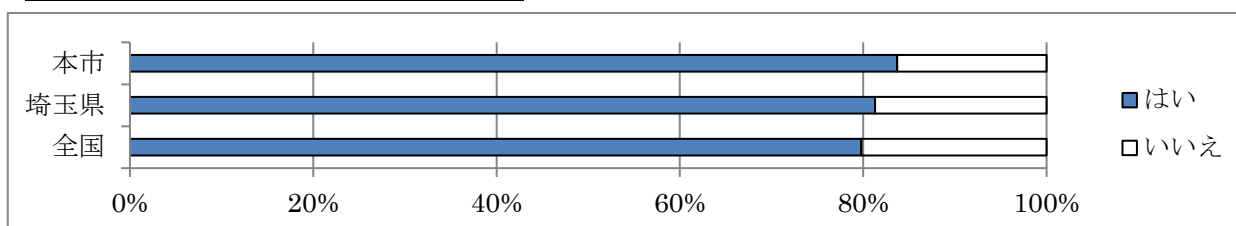
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

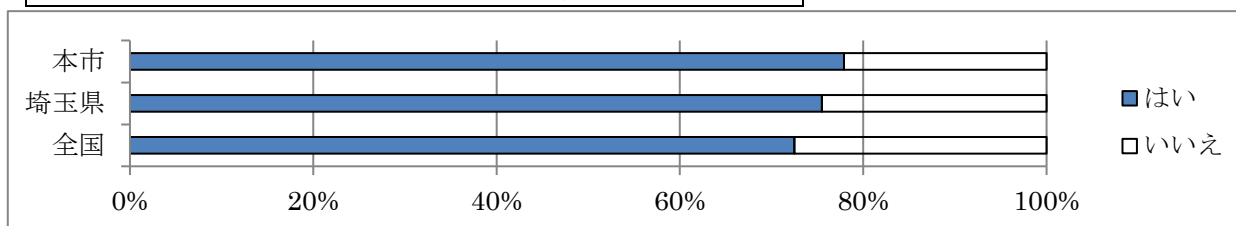
自分には良いところがあると思いますか。



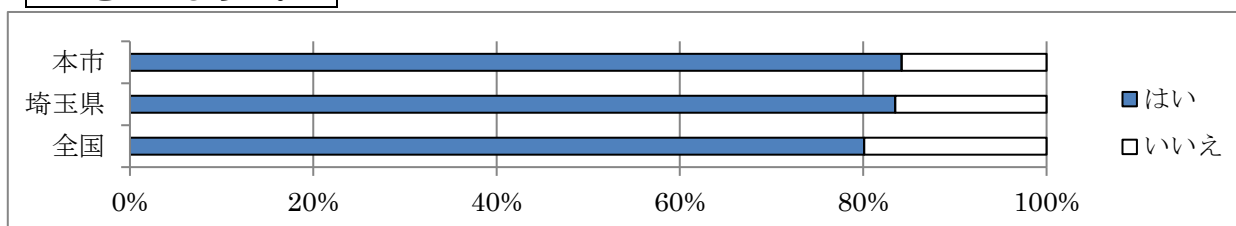
将来の目標や夢をもっていますか。



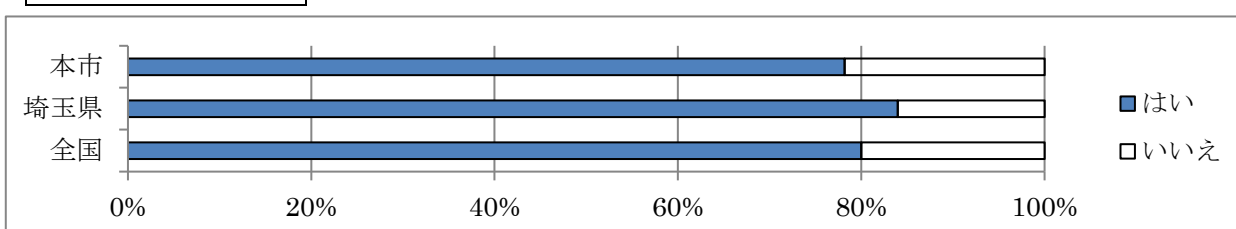
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。



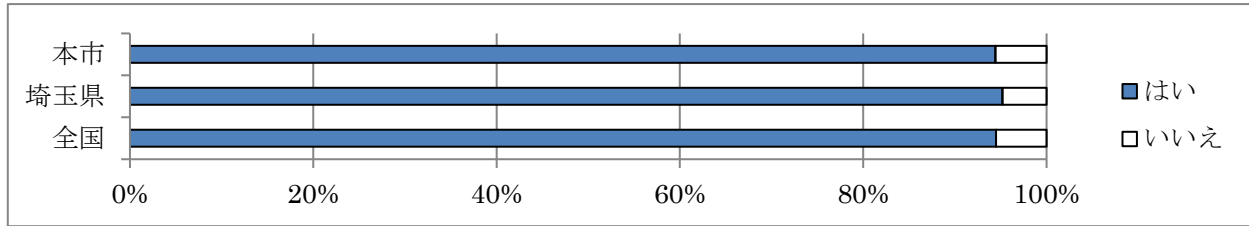
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



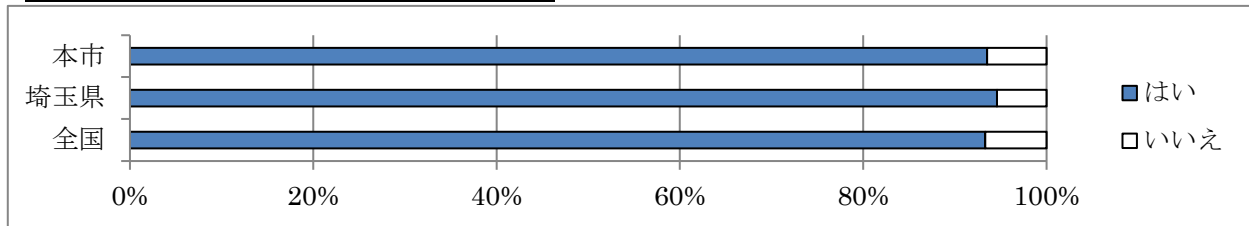
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



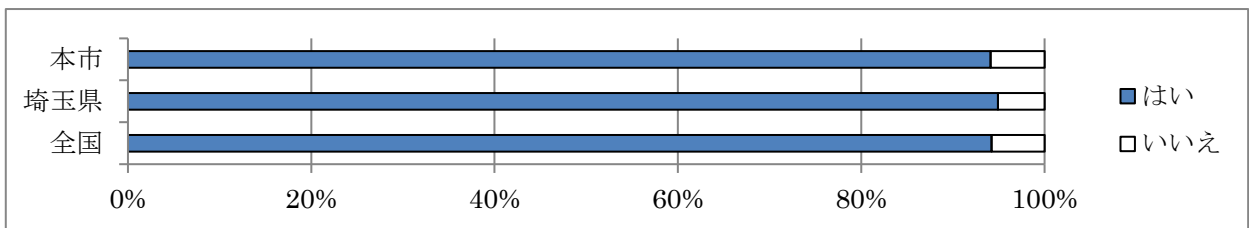
学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



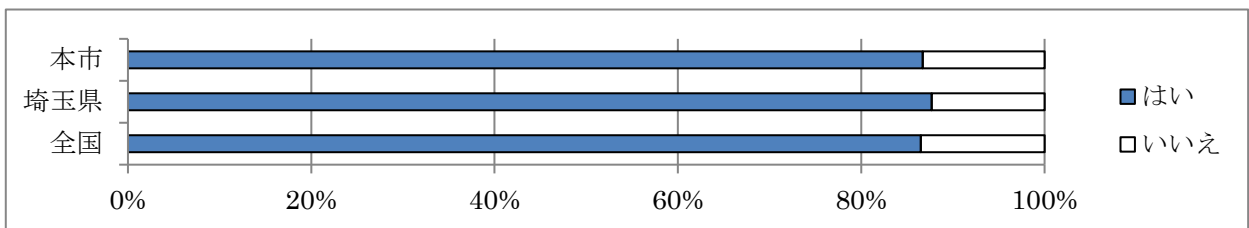
国語の勉強は大切だと思いますか。



算数の勉強は大切だと思いますか。



理科の勉強は大切だと思いますか。



中学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの

| 国語 | | | | |
|-----------------|-----|----------------|---------------|----------------|
| 学習指導要領の領域等 | 設問数 | 本市平均正答率 (%) | 県平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 6 | 71.8 | 72.2 | 72.2 |
| 情報の扱い方に関する事項 | 1 | 49.6 | 48.3 | 46.5 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 3 | 73.0 | 71.6 | 70.2 |
| 話すこと・聞くこと | 3 | 63.8 | 64.3 | 63.9 |
| 書くこと | 1 | 49.6 | 48.3 | 46.5 |
| 読むこと | 2 | 68.6 | 69.2 | 67.9 |

| 数学 | | | | |
|-----------|-----|----------------|---------------|----------------|
| 学習指導要領の領域 | 設問数 | 本市平均正答率 (%) | 県平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
| 数と式 | 5 | 54.7 | 56.9 | 57.4 |
| 図形 | 3 | 43.3 | 44.2 | 43.6 |
| 関数 | 3 | 41.1 | 44.3 | 43.6 |
| データの活用 | 3 | 57.9 | 58.2 | 57.1 |

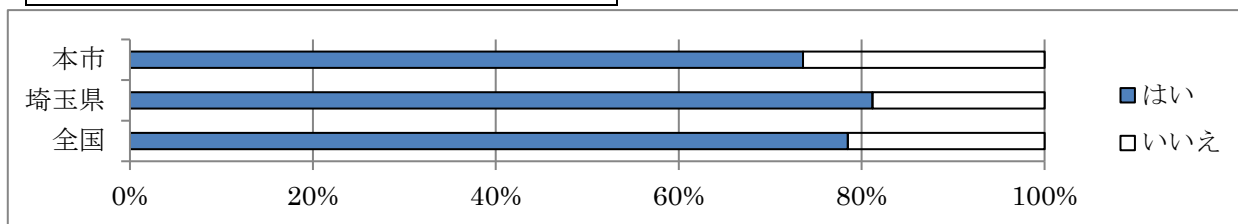
| 理科 | | | | |
|----------------|-----|----------------|---------------|----------------|
| 学習指導要領の領域等 | 設問数 | 本市平均正答率 (%) | 県平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 6 | 38.1 | 41.1 | 41.9 |
| 「粒子」を柱とする領域 | 5 | 48.9 | 50.5 | 50.9 |
| 「生命」を柱とする領域 | 5 | 58.2 | 57.9 | 57.9 |
| 「地球」を柱とする領域 | 6 | 42.3 | 44.1 | 44.3 |

＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

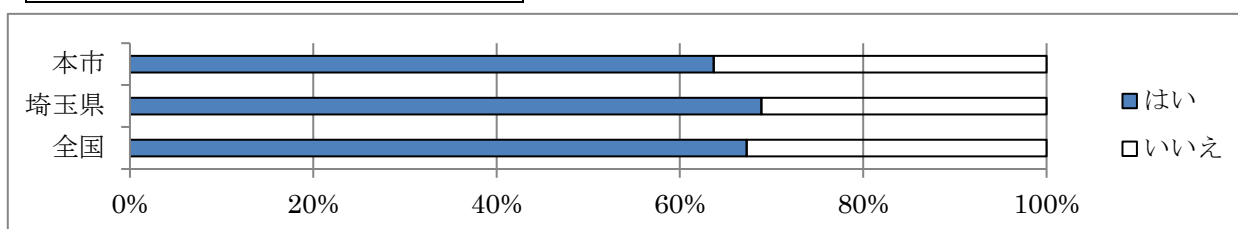
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

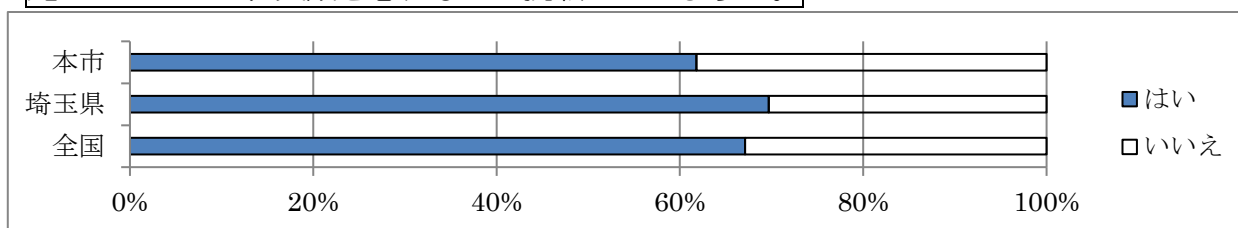
自分には良いところがあると思いますか。



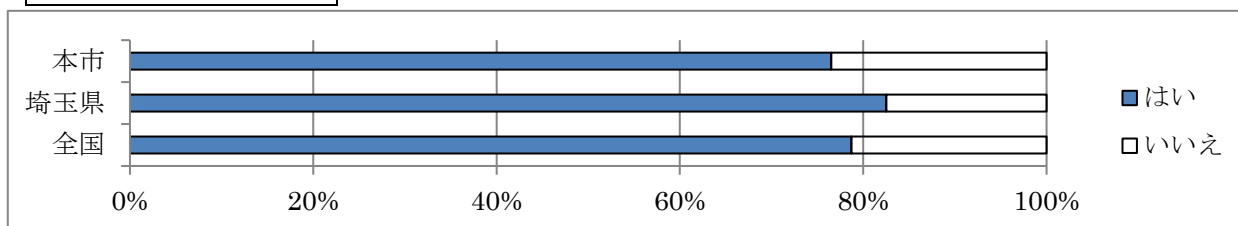
将来の夢や目標を持っていますか。



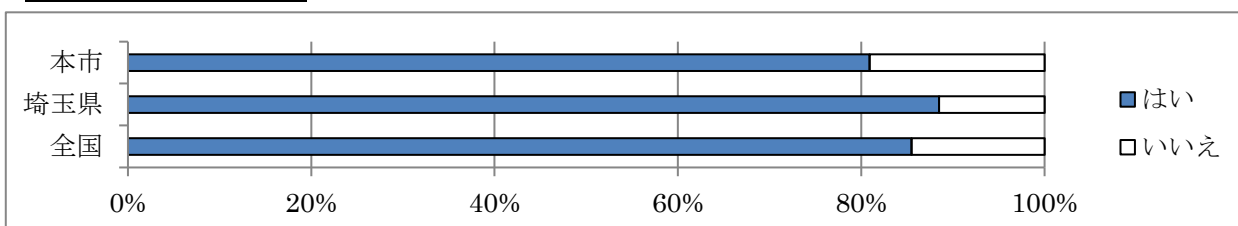
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。



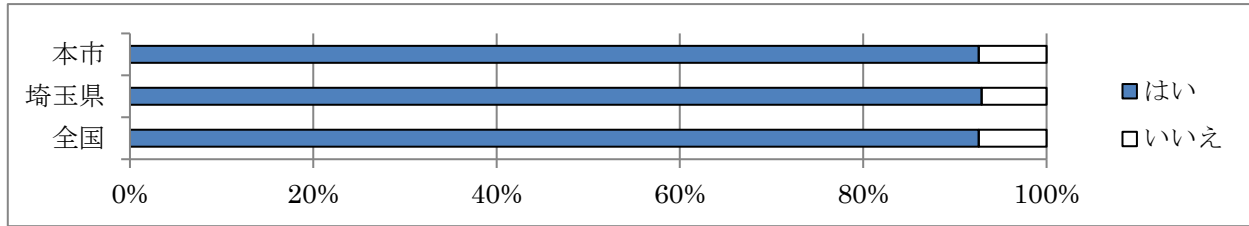
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



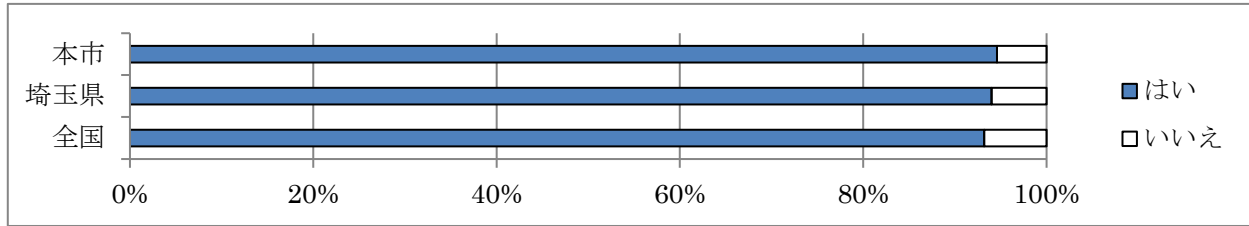
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



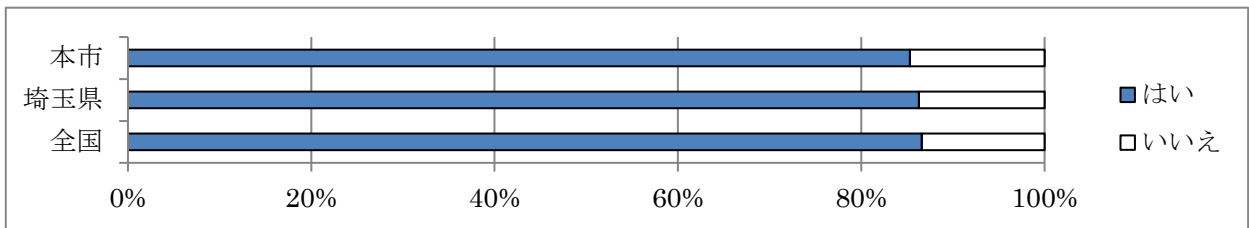
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



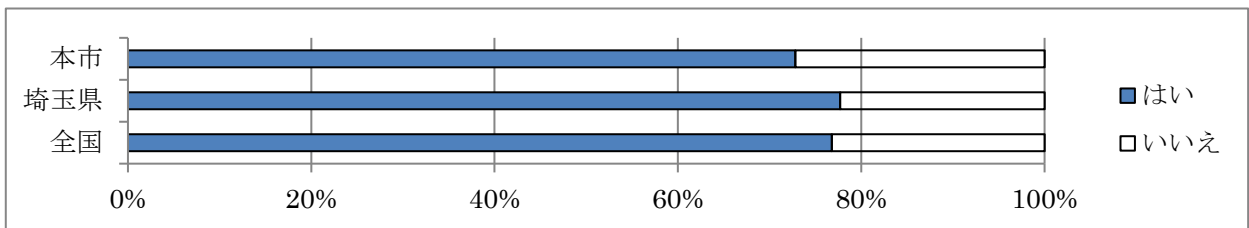
国語の勉強は大切だと思いますか。



数学の勉強は大切だと思いますか。



理科の勉強は大切だと思いますか。



桶川市の調査結果の分析・考察

＜小学校国語＞

【領域別の分析】

結果からわかること

○知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均正答率を上回りました。思考力、判断力、表現力等の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれも全国平均正答率を上回っています。

分析

○「話すこと・聞くこと」では、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができています。

◆「書くこと」では、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題があります。

○「読むこと」では、登場人物の相互関係について、描写をもとに捉えることができています。

◆「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、漢字を文の中で正しく使うことの本答率が低いことが分かります。

【問題例①】

問題 3三

ア 一部のひらがなを漢字でいねいに書く（中略）正しく使うことができている学級の様子をろくがして、各学級にしようかいたそうです。

イ そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を模索できていなかったことをはんせいしました。

ウ 運動が苦手な人もしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいたたいです。

答 ア 録画 イ 反省 ウ 親（しむ）
ア 本市正答率 66.0%（全国 65.2%）
イ 本市正答率 53.8%（全国 58.7%）
ウ 本市正答率 67.3%（全国 67.1%）

＜分析＞

◆配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができている。

◎本や教科書を読んだり、文章を書く時に積極的に習った漢字を使うことが大切です。

| | 誤答 | 誤答率 (%) | |
|---|------|---------|------|
| | | 本市 | 全国 |
| ア | ×「録」 | 22.1 | 20.4 |
| | ×「画」 | 1.3 | 1.7 |
| | 無解答 | 6.1 | 8.1 |
| イ | ×「反」 | 1.9 | 1.7 |
| | ×「省」 | 22.4 | 20.7 |
| | 無解答 | 7.4 | 10.2 |
| ウ | ×「親」 | 20.4 | 18.2 |

【問題例②】

問題 3二

【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く

正答例

わたしの文章のよさは、今年がんばりたいことを伝えるために、南さんの話や、さいばい委員の活動で反省したことを書いたり、運動委員として進めたい新たな活動を、最後のどん落に具体的に書いたりしたところです。

本市正答率 36.4%（全国 37.7%）

＜分析＞

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる問題です。①【文章2】のよさについて書くこと②【文章2】から言葉や文を取り上げて書いている③60字以上、100字以内で書いている、この3つの条件を満たしていることが必要です。

誤答例

わたしは、運動委員会でみんなのことを考えた新たな活動を進めたいと思っています。運動が苦手な人も親しむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいたたいです。

◆【文章2】から言葉や文を取り上げていますが、【文章2】のよさについて書けていません。

◎よさを自分の言葉で表現できることが大切です。

＜小学校算数＞

【領域別の分析】

結果から分かること

- 「図形」「変化と関係」では、全国平均正答率を上回っていますが、県平均正答率は「図形」では上回っていますが、「変化と関係」は同じ値になっています。
- ◆「数と計算」「データの活用」では、県平均正答率・全国平均正答率ともに下回っています。

分析

- 1に当たるプログラミングで図形を作成する問題では、プログラミング学習により命令でどのように動くかを想像することができ、平行四辺形の意味を理解することに高い定着が見られます。
- ◆数と計算については、最小公倍数や最大公約数の意味を理解や記述式の問題に課題があります。
- 無解答率の割合が県や全国と比べて全体的に低くなっています。学習意欲が高くなっていると考えられます。

【問題例①】

問題 4 (4)

次のプログラムでつくることのできる図形を選びなさい。

4 cmの直線を引く。

左に 60° 回転する。

3 cmの直線を引く。

左に 120° 回転する。

4 cmの直線を引く。

左に 60° 回転する。

3 cmの直線を引く。

正答 3 平行四辺形

本市正答率 62.2% (全国 57.6%)

本市無解答率 3.5% (全国 5.1%)

＜分析＞

- 作図の手順を理解することと、平行四辺形であることを判断できることを、全国よりも多くの児童ができています。
- ◎プログラミング学習により命令によりどう動くかを想像できるようにすることと図形の知識を身に付けることが大切です。

【問題例②】

問題 1 (2)

カップケーキが、1箱14個入りで1,050円のAセットと、1箱21個入りで1,470円のBセットがあります。

(2) 14と21の最小公倍数を書きましよう。

14の倍数 14 28 42 56 70 84
21の倍数 21 42 63 84

倍数のうち同じ数になるものを公倍数と言い、そのうち最も小さいものを最小公倍数と言います。

(本市の誤答例)

- ・7と回答しているものが13.4%
- ・最小でない公倍数を回答しているもの4.5%

正答 42

本市正答率 67.5% (全国 72.2%)

本市無解答率 2.4% (全国 3.0%)

＜分析＞

- ◆7と解答した児童が多いことから最大公約数と最小公倍数を誤認している児童が多いことが分かります。
- ◎一つの数の倍数や約数を具体的に挙げて、それらの数がもう一つの数の約数や倍数になっているかを調べることができるようにすることが大切です。

<小学校理科>

【領域別の分析】

結果からわかること

○学習指導要領の領域については、「粒子を柱とする領域」と「生命を柱とする領域」において、全国平均を上回っています。その中でも「粒子を柱とする領域」においては、埼玉県平均も上回りました。また、評価の観点においては「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれも全国平均を上回っています。

分析

○メスシリンダーという器具についての理解や、その正しい使い方について理解、昆虫の体のつくりに関する理解というような知識に関する問題については、理解ができています。

◆日光は直進するというものの理解、水は水蒸気になって空気中に含まれていること、水が蒸発するというような、事象に関する知識に関しては、正答率が低いことがわかります。

○情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題については、全国や埼玉県の平均に比べるとできています。

◆問題に対するまとめを検討して、改善したり、問題の視点で分析してしたりして、自分の考えをもち、その内容を記述する問題の正答率が低いことがわかります。

【問題例①】

問題 1 (3)

ナナホシテントウがこん虫であることを説明しようとしています。こん虫であることを体のつくりから説明するためには、どのような写真が必要ですか。下の1から4までの中から最も適切なものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 上から
- 2 下から
- 3 前から
- 4 横から

正答 2 下から

本市正答率 75.6% (全国 73.1%)

<分析>

○ナナホシテントウを対象として、昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であることを説明するための視点について理解している児童が全国よりも多くいます。

◎昆虫の体のつくりについて理解するには、複数の種類の昆虫の体のつくりを比較しながら調べ、差異点や共通点を基に、共通した特徴である、成虫の頭、胸、腹といった部分に着目して、調べたことを他者に正確に説明することが大切です。

【問題例②】

問題 3 (4)

【問い】

はね返した日光を水の入ったかんにあてると、何色のかんの水の温度が最も高くなるか。

【結果】

| | 0分 | 20分後 | 30分後 |
|---|-----|------|------|
| 黒 | 24℃ | 28℃ | 32℃ |
| 赤 | 24℃ | 27℃ | 29℃ |
| 青 | 24℃ | 27℃ | 30℃ |
| 白 | 24℃ | 25℃ | 26℃ |

【まとめ】

はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなるといえる。

上のまとめのようにまとめたわけを上の結果を使って書きましょう。

正答の条件

①缶の色、②時間、③水の温度、④水の温度の比較について言及する趣旨について解答しているもの。

ウ 本市正答率 33.5% (全国 35.1%)

<分析>

◆本市では特に、正答の条件①と④について記述しているが、②と③についての記述がない児童が多かったです。

◎実験で得た結果を事実として分析して、解釈し、問題の視点で考察するには、結論を導き出す際に、根拠となる事実と解釈を表現することが大切です。

＜小学校質問紙調査＞

【質問例①】

質問

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市児童の割合

84.5%

(全国 72.2%)

＜分析＞

○「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、12ポイント以上、全国と比較して上回っています。本市において51.5%の過半数の児童が「当てはまる」と回答していることから、主体的に学習に取り組んでいることが伺えます。

◎総合的な学習の時間と同様に全ての教科にて主体的・対話的な学習を行うことで、さらなる学力向上につながると考えられます。

【質問例②】

質問

自分には、よいところがあると思いますか。

回答結果

「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と答えた本市児童の割合

23.9%

(全国 20.7%)

＜分析＞

◆「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童の割合は、3.2ポイント、全国と比較して下回っています。

◆昨年度の同様の調査の結果と比較すると、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と答えた本市児童の割合が昨年度21.1%であったので、今年度は2.8%下回っています。

◎様々な取組の中で自信をもたせ、自分のよさに気付くことができる児童が増えれば、さらなる学力向上につながると考えられます。

クロス集計の結果

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいた」×「教科に関する調査」(正答率)

| 選択肢 | 児童数の割合 | 国語(平均正答率) | 算数(平均正答率) | 理科(平均正答率) | 3教科(平均正答率) |
|------------------|--------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 当てはまる | 51.5% | 72.8% | 67.8% | 68.7% | 69.8% |
| どちらかといえば、当てはまる | 33.0% | 66.1% | 62.8% | 64.1% | 64.3% |
| どちらかといえば、当てはまらない | 11.3% | 52.6% | 46.0% | 49.5% | 49.4% |
| 当てはまらない | 4.3% | 52.8% | 49.5% | 50.4% | 50.9% |

○「当てはまる」と答えた本市児童の3教科(国語、算数、理科)の平均正答率は、「当てはまらない」と答えた本市児童の3教科(国語、算数、理科)の平均正答率よりも18.9%高くなっています。

◎「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の2つの群と、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」の2つの群を比べると、小学校、中学校ともに3教科(国語、算数、理科)の平均正答率に大きな差がみられることから、主体的に自ら課題を設定し、自らの考えを発表する学習活動を積極的に行わせることが、学力を向上させることにつながると考えられます。

＜中学校国語＞

【領域別の分析】

結果からわかること

○知識及び技能の「情報の使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均正答率を上回っています。思考力、判断力、表現力等の「書くこと」で、正答率が全国及び県の平均を上回っています。

◆「話すこと・聞くこと」「読むこと」で正答率が全国平均を下回っています。

分析

○「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことや、「漢字の行書の読みやすい書き方について理解する」ことなどは、高い定着が見られます。

◆「場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する」ことや、「表現の技法について理解する」ことにはやや課題が見られます。

【問題例①】

問題 1 二

話の進め方のよさを具体的に説明した
ものとして適切なものを選択する問題。

正答 3

本市正答率 64.4% (全国 65.1%)

＜分析＞

◆論理の展開などに注意して聞くことができるかどうかをみる問題です。本問では、自分のスピーチを動画に記録して友達から助言をもらう場面を設定しました。正答以外の選択肢は、論理の展開に注意し、話全体がどのようにまとめられようとしているかを考えることに課題があります。選択肢1, 2については、川口さんがインターネットの「便利さを実感」していることを述べた後で、「一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくい」と述べていることを捉えることが必要です。選択肢4については、「やりとりをスムーズに行いにくい」ということと、「私は相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました。」という友達の言葉との関係を適切に捉えることが求められています。

◎話し手の考えを聞いて自分の考えをまとめる際には、情報同士の結び付きに注意しながら、話の要点を捉えたり、意見に対する根拠の適切さを判断したりして聞くことが大切です。授業においては、互いのスピーチを聞き合って質問や助言をする場面を設定するなど、自分が聞き取って理解したことや考えたことを確かめたり共有したりするなどの学習活動をとおしてこうした力を養っています。

【問題例②】

問題 2 三

農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える問題。

正答例

(例えば、) 農林水産省のウェブページにある資料には、作業の自動化以外に「情報共有の簡素化」と「データの活用」が示されている。

本市正答率 49.6% (全国 46.5%)

＜分析＞

○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題です。正答の条件として①【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から適切な情報を抜き出して書いていること、②引用する部分をかぎかっこ(「 」)でくくって書いていること、③「例えば」に適切に続くように書いていることが求められます。誤答として最も多かったのが②の条件を満たしていないもので38.8% (全国 40.2%) でした。考えを支える適切な情報を取り出して書くことは身に付いてきていると考えられます。引用の仕方を理解すれば、さらに伸びると思われます。また、無解答は7.8% (全国 9.0%) でした。

◎意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にすることが大切です。授業においては、資料から必要部分を引用して自分の考えを伝える文章を書き、互いに読み合うなどの学習活動を行っています。その際、引用の仕方について理解を深めるような指導が有効です。

<中学校数学>

【領域別の分析】

結果から分かること

- 「データの活用」では、全国平均を上回りました。
- ◆「数と式」「図形」「関数」の3領域では、全国平均を下回りました。
- ◆全体でも全国平均を1.4ポイント下回りました。

分析

- ◆記述式の問題について、無解答率が全国平均よりも最大4.1ポイント高くなっています。思考力・判断力・表現力をさらに高めていくために、主体的・対話的で深い学びを実践することが大切です。

【問題例①】

問題 5

容器のふたを投げた時に下向きになる確率を選ぶ。

| 投げた回数 | 下向きになった回数 | 下向きになる相対度数 |
|-------|-----------|------------|
| 10 | 7 | 0.70 |
| 50 | 32 | 0.64 |
| 100 | 58 | 0.58 |
| 500 | 299 | 0.60 |
| 1000 | 589 | 0.59 |
| 1500 | 889 | 0.59 |
| 2000 | 1190 | 0.60 |

正答 およそ0.6

本市正答率 84.1% (全国 83.3%)

本市無解答率 0.4% (全国 0.3%)

<分析>

誤答例

- およそ0.5 本市5.3% 全国6.1%
- およそ0.7 本市6.2% 全国7.1%
- およそ1.0 本市4.0% 全国3.3%

○本市正答率は、全国に比べて0.8ポイント上回っています。多数回の試行によって得られる相対度数が確率に近づくことを理解できています。

- ◆誤答では、およそ1.0と答えた割合が全国よりも高くなっています。確率の意味の理解について課題が見られます。

◎不確定な事象を捉え考察する場面では、不確定な事象の起こりやすさの傾向を確率を用いて考察することが大切です。

不確定な事象の起こりやすさについて、数学的活動を通して、学習することが必要です。

【問題例②】

問題 6 (2)

差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることを説明する。

n を整数とすると、差が4である2つの偶数のうち、小さい方の偶数は $2n$ 大きい方の偶数は $2n+4$ と表される。

それらの和は、

$$2n + (2n + 4) =$$

正答 $4n + 4$

$$= 4(n + 1)$$

$n + 1$ は整数だから、 $4(n + 1)$

は4の倍数である。

本市正答率 43.7% (全国 48.7%)

本市無解答率 24.1% (全国 20.0%)

<分析>

誤答例

$4n + 4$ は計算できているが、説明がないもの

本市 6.2% 全国 7.6%

$4(n + 1)$ の $n + 1$ が違う単項式・多項式になっているもの

本市 2.7% 全国 3.9%

上記以外の解答

本市 23.2% 全国 19.7%

- ◆本市正答率は、全国に比べて5ポイント下回っています。無解答率も、4.1ポイント上回り、文字式の説明に課題が見られます。

◎目的に応じて、式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を考えながら学習することが必要です。

<中学校理科>

【領域別の分析】

結果からわかること

○学習指導要領の領域については、「生命を柱とする領域」において、全国平均及び埼玉県平均を上回っています。

◆「生命を柱とする領域」以外の領域については、全国平均を下回っています。

分析

○節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することができています。

○予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことが全国平均と比較することができています。

◆課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる問題の正答率が低くなっています。

◆知識及び技能を身に付けたり、その知識及び技能を活用するような問題に対して、正答率が低くなる傾向にあることが分かります。

【問題例①】

問題 4 (1)

ダイオウグソクムシとダンゴムシの足の様子が異なる理由として、考えられることを書きなさい。

【水族館の展示から】

ダイオウグソクムシは深海で生活しており、ダンゴムシと同じ甲殻類である。

【調べたこと】

○ダイオウグソクムシ

食べるもの：動物の死がい

足の様子：泳ぐのに用いる足がある。

体の表面：外骨格 子のうまれ方：卵生

○ダンゴムシ

食べるもの：落ち葉、動物の死がい

足の様子：泳ぐのに用いる足がある。

体の表面：外骨格 子のうまれ方：卵生

正答 ダイオウグソクムシは深海を泳ぎ、ダンゴムシは陸上を歩くから。

本市正答率 76.4% (全国 74.5%)

<分析>

○ダイオウグソクムシとダンゴムシの生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できていると考えられます。

◎身に付けた知識及び技能を日常生活の事象に活用し、問題を見出して課題を設定するなど、科学的な探究を主体的に遂行できるようにすることが大切です。

【問題例②】

問題 7 (1)

熱をうばって蒸発することとしくみが同じ現象を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア かき氷をすくった金属のスプーンの温度が下がる。

イ ラムネ菓子を食べると化学変化で口の中の温度が下がる。

ウ アルコールで手を消毒すると、手の温度が下がる。

エ 氷に食塩をかけると0℃より温度が下がる。

正答 ウ アルコールで手を消毒すると、手の温度が下がる。

本市正答率 34.4% (全国 35.9%)

※本市の生徒の解答の傾向としてエと解答した生徒が37.1%で最も多く、次に正答であるウと解答した生徒が34.4%が多かった。

<分析>

○エは小学校で観察、実験を行った氷水に食塩を加えて温度が下がる現象を、熱を奪って蒸発する現象と同じ仕組みと捉えている可能性があります。このことから、状態変化に関する知識を活用できていないことが考えられます。

◎状態変化に関する知識や技能と日常生活や社会の中での事象を関連付けて探究することで、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高め、次の探究につなぐことが大切です。

＜中学校質問紙調査＞

【質問例①】

質問

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市児童の割合

83.7%

(全国 72.1%)

＜分析＞

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、11.6ポイント全国と比較して上回っています。本市において83.7%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答していることから、主体的に学習に取り組んでいることが伺えます。
- ◎総合的な学習の時間と同様に全ての教科にて主体的・対話的な学習を行うことで、さらなる学力向上につながると考えられます。

【質問例②】

質問

自分にはよいところがあると思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市生徒の割合

73.6%

(全国 78.5%)

＜分析＞

- ◆「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を4.9ポイント下回っています。また、「当てはまらない」と答えた本市の生徒の割合は10.7%であり、全国の6.6%と比べ、4.1ポイント高くなっておりま。
- ◆「将来の夢や目標をもっていますか」の質問についても、「当てはまらない」と答えた生徒の割合は19.3%あり、全国の平均の13.4%を5.9ポイント上回っています。
- ◎「自分にはよいところがある」、「自分には夢や目標がある」という思いをもつことで、自己肯定感や意欲が高まり、主体的に学習に取り組む態度が醸成されているものと考えられます。

クロス集計の結果

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいた」×「教科に関する調査」(正答率)

| 選択肢 | 児童数の割合 | 国語(平均正答率) | 算数(平均正答率) | 理科(平均正答率) | 3教科(平均正答率) |
|------------------|--------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 当てはまる | 48.1% | 74.1% | 56.7% | 51.6% | 60.8% |
| どちらかといえば、当てはまる | 35.6% | 69.5% | 47.7% | 46.1% | 54.4% |
| どちらかといえば、当てはまらない | 12.3% | 56.7% | 35.9% | 37.9% | 43.5% |
| 当てはまらない | 3.8% | 59.9% | 32.7% | 36.3% | 43.0% |

- 「当てはまる」と答えた本市児童の3教科(国語、算数、理科)の平均正答率は、「当てはまらない」と答えた本市児童の3教科(国語、算数、理科)の平均正答率よりも17.8%高くなっています。
- ◎「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の2つの群と、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」の2つの群を比べると、小学校、中学校ともに3教科(国語、算数、理科)の平均正答率に大きな差がみられることから、主体的に自ら課題を設定し、自らの考えを発表する学習活動を積極的に行わせることが、学力を向上させることにつながると考えられます。



<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

令和4年5月11日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

桶川市の調査結果の概況

小学校

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

| 国語 | 第4学年 | | | 第5学年 | | | 第6学年 | | |
|-----------------|------|---------|---------|------|---------|---------|------|---------|---------|
| | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 |
| 言葉の特徴や使い方 | 14 | 69.7 | 70.2 | 15 | 65.8 | 64.3 | 15 | 66.4 | 66.8 |
| 情報の扱い方、我が国の言語文化 | 3 | 58.7 | 59.0 | 2 | 62.1 | 59.1 | 2 | 65.3 | 63.6 |
| 話すこと・聞くこと・書くこと | 5 | 40.3 | 40.5 | 5 | 47.1 | 49.5 | 5 | 66.2 | 65.3 |
| 読むこと | 4 | 63.9 | 63.1 | 8 | 46.9 | 44.5 | 8 | 56.0 | 57.4 |
| ※学力の伸びた児童の割合 | | | | | ↑↑ | ↑↑ | | ↑↑↑↑ | ↑↑↑↑ |

| 算数 | 第4学年 | | | 第5学年 | | | 第6学年 | | |
|----------------|------|---------|---------|------|---------|---------|------|---------|---------|
| | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 |
| 数と計算 | 13 | 64.1 | 64.0 | 13 | 64.4 | 62.2 | 13 | 63.4 | 64.2 |
| 図形 | 6 | 50.5 | 51.4 | 8 | 60.2 | 56.7 | 8 | 54.0 | 56.7 |
| 4年測定 5、6年変化と関係 | 6 | 61.2 | 61.8 | 5 | 75.7 | 74.1 | 5 | 64.2 | 65.0 |
| データの活用 | 5 | 73.7 | 75.7 | 6 | 66.1 | 64.0 | 6 | 49.8 | 50.3 |
| ※学力の伸びた児童の割合 | | | | | ↑↑↑ | ↑↑↑↑ | | ↑↑↑ | ↑↑↑ |

<児童への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段: 県の達成率、下段: 本市の達成率、 は80%以上 (%)

| 内容 | 項目 | 第4学年 | 第5学年 | 第6学年 |
|--------------------|-------------------|-----------------|--------------|--------------|
| ○けじめある生活ができる | 1 時刻を守る | | | |
| | ① 登校時刻 | 89.1 90.4 | 91.9 92.3 | 93.8 96.3 |
| | ② 授業の開始時刻 | 87.8 84.0 | 90.9 90.6 | 94.2 94.8 |
| | 2 身の回りの整理整頓をする | | | |
| | ③ 靴そろえ | 79.6 77.1 | 82.1 78.3 | 85.5 86.6 |
| | ④ 整理整頓 | 76.2 73.0 | 76.7 76.9 | 79.9 81.2 |
| | ○礼儀正しく人と接することができる | 3 進んであいさつや返事をする | | |
| ⑤ あいさつ | | 75.8 74.7 | 75.6 72.7 | 77.7 74.8 |
| ⑥ 返事 | | 85.5 88.4 | 85.6 86.8 | 86.1 86.6 |
| 4 ていねいな言葉づかいを身に付ける | | | | |
| ⑦ ていねいな言葉づかい | | 82.3 81.6 | 85.1 88.3 | 87.7 87.7 |
| ⑧ やさしい言葉づかい | | 81.8 83.1 | 83.2 85.8 | 83.5 82.1 |
| ○約束やきまりを守ることができる | | 5 学習のきまりを守る | | |
| | ⑨ 学習準備 | 82.3 83.3 | 84.6 85.1 | 87.2 87.3 |
| | ⑩ 話を聞き発表する | 75.1 75.6 | 74.5 77.9 | 74.9 75.9 |
| | 6 生活のきまりを守る | | | |
| | ⑪ 集団の場での態度 | 81.4 81.6 | 81.9 86.1 | 83.2 85.1 |
| | ⑫ 掃除・美化活動 | 89.2 90.8 | 87.6 89.6 | 86.5 86.6 |

中学校

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

| 国語 | 第1学年 | | | 第2学年 | | | 第3学年 | | |
|-----------------|------|---------|---------|------|---------|---------|------|---------|---------|
| | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 |
| 言葉の特徴や使い方 | 13 | 63.6 | 61.7 | 13 | 58.9 | 55.8 | 12 | 65.9 | 65.2 |
| 情報の扱い方、我が国の言語文化 | 4 | 59.1 | 59.3 | 6 | 61.9 | 58.5 | 7 | 62.2 | 60.8 |
| 話すこと・聞くこと・書くこと | 5 | 55.5 | 53.8 | 4 | 59.1 | 56.5 | 4 | 51.8 | 49.9 |
| 読むこと | 8 | 57.7 | 57.1 | 7 | 62.8 | 58.5 | 7 | 39.6 | 40.3 |
| ※学力の伸びた生徒の割合 | | ↑↑↑↑ | ↑↑↑↑ | | ↑↑↑↑ | ↑↑↑ | | ↑↑↑ | ↑↑↑ |

| 数学（内容は算数） | 第1学年 | | |
|--------------|------|---------|---------|
| | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 |
| 数と計算 | 12 | 59.9 | 60.8 |
| 図形 | 8 | 57.0 | 55.8 |
| 変化と関係 | 7 | 56.1 | 56.2 |
| データの活用 | 5 | 54.4 | 55.4 |
| ※学力の伸びた生徒の割合 | | ↑↑↑↑ | ↑↑↑↑ |

| 数学 | 第2学年 | | | 第3学年 | | |
|--------------|------|---------|---------|------|---------|---------|
| | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 |
| 数と式 | 13 | 56.1 | 54.0 | 12 | 68.0 | 67.7 |
| 図形 | 6 | 50.5 | 47.9 | 8 | 51.6 | 51.9 |
| 関数 | 4 | 54.6 | 53.8 | 6 | 42.7 | 44.0 |
| データの活用 | 7 | 62.6 | 55.6 | 6 | 55.5 | 55.8 |
| ※学力の伸びた生徒の割合 | | ↑↑↑↑↑ | ↑↑↑↑ | | ↑↑↑↑ | ↑↑↑ |

| 英語 | 第2学年 | | | 第3学年 | | |
|--------------|------|---------|---------|------|---------|---------|
| | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本市平均正答率 | 県の平均正答率 |
| 聞くこと | 10 | 68.6 | 67.3 | 10 | 55.2 | 54.9 |
| 読むこと | 18 | 61.7 | 60.6 | 18 | 61.4 | 62.8 |
| 書くこと | 7 | 44.5 | 43.1 | 7 | 39.5 | 39.8 |
| ※学力の伸びた生徒の割合 | | | | | ↑↑↑↑↑ | ↑↑↑↑↑ |

<生徒への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段: 県の達成率、下段: 本市の達成率、 は80%以上 (%)

| 内容 | 項目 | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 |
|-------------------|--------------------|-------------|-------------|-------------|
| ○けじめある生活ができる | 1 時刻を守る | | | |
| | ① 登校時刻 | 97.7 | 96.1 | 96.3 |
| | | 97.6 | 95.8 | 96.2 |
| | ② 授業開始時刻 | 96.9 | 97.1 | 97.6 |
| | | 94.4 | 95.8 | 97.5 |
| | 2 身の回りの整理整頓をする | | | |
| | ③ 靴そろえ | 89.1 | 89.8 | 92.3 |
| 86.5 | | 87.7 | 91.4 | |
| ④ 整理整頓 | 77.1 | 77.0 | 80.8 | |
| | 75.3 | 78.7 | 81.5 | |
| ○礼儀正しく人と接することができる | 3 進んであいさつや返事をする | | | |
| | ⑤ あいさつ | 81.9 | 81.7 | 83.5 |
| | | 80.4 | 82.0 | 84.4 |
| | ⑥ 返事 | 88.0 | 86.6 | 88.3 |
| | | 88.0 | 83.4 | 90.0 |
| | 4 ていねいな言葉づかいを身に付ける | | | |
| | ⑦ ていねいな言葉づかい | 91.2 | 90.5 | 92.2 |
| 91.5 | | 90.1 | 92.8 | |
| ⑧ やさしい言葉づかい | 89.3 | 88.1 | 88.7 | |
| | 87.3 | 85.8 | 86.9 | |
| ○約束やきまりを守ることができる | 5 学習のきまりを守る | | | |
| | ⑨ 学習準備 | 91.9 | 91.2 | 92.5 |
| | | 89.3 | 90.7 | 93.7 |
| | ⑩ 話を聞き発表する | 77.2 | 73.4 | 76.7 |
| | | 73.1 | 74.3 | 75.6 |
| | 6 生活のきまりを守る | | | |
| | ⑪ 集団の場での態度 | 92.6 | 92.5 | 94.6 |
| 90.9 | | 91.5 | 94.6 | |
| ⑫ 掃除・美化活動 | 85.8 | 84.3 | 85.8 | |
| | 82.2 | 83.0 | 86.4 | |

桶川市の学力向上の取組

教育委員会では、学力向上を教育行政の最重要課題として位置付けており、各学校におけるより一層の学習指導の改善・充実に向け、支援を行っています。「確かな学力」を身に付けさせるために、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「主体的に学習に取り組む態度の涵養」を重点に取り組んでいるところです。

また、各学校においては、児童生徒の現状を全国や埼玉県の学力・学習状況調査の結果や各種調査を分析して、その結果に至った要因や課題を明らかにし、具体的な学力向上プランを作成し、授業改善等に取り組みを指導しています。教育委員会といたしましては、市内全小・中学校への学校訪問を行い、学校課題研究の充実や学力向上に向けた授業改善等についての指導・助言を通して、各学校の取組の推進を支援してまいります。

1 学校課題研究（校内研修）の充実

- (1) 研究主題に迫るための授業研究会の実施
- (2) 今年度の研究発表校

| 学校名 | 研究領域 | 研究主題等 | 研究発表会 |
|--------|------|--|-------------------|
| 日出谷小学校 | 学力向上 | 教師がときめき 児童がきらめく 授業づくり | 令和4年 10月28日(金) |
| 朝日小学校 | 特別活動 | 互いの思いを認め合い、自信をもって表現する朝日っ子 ～気持ちを伝え合う力を育てる特別活動の工夫・改善～ | 令和4年 11月10日(木) |
| 桶川東中学校 | 学習指導 | 「できた、わかった、楽しい」を味わわせる学習指導の 質的改善 ～主体的・対話的で深い学びを通して～ | 令和4年 11月18日(金) |
| 加納中学校 | 道徳教育 | 対話を通してより良い生き方を考えることができる生徒の 育成 | 令和4年 10月25日(火) |

2 具体的な指導方法の工夫・改善

- (1) 主体的な学びの実現のために
 - 意欲を高めることにつながる授業導入の工夫と課題に対応したまとめを行う。
 - 学習課題（ねらい）を明示し、見通しをもたせ、追究方法や手順等の選択・決定を支援する。
- (2) 対話的な学びの実現のために
 - 活動に応じた学習形態を設定する。
 - 意見を交換したり、発表をしたり、聞いたりしながら考えをまとめていく授業を展開する。
- (3) 深い学びの実現のために
 - 考えを可視化させる思考ツール等を積極的に活用する。
 - 予想の場や試行錯誤する場の設定を行う。
 - 実験や体験活動を充実させる。
- (4) ICTの効果的な活用のために
 - 授業のねらいを示したり、学習課題への興味関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明したりする方法の一つとしてICTを活用する。
 - 児童生徒が、情報を収集や選択したり、文章・図や表にまとめたり、表現したりする際に、或いは、繰り返し学習によって知識の定着や技能の習熟を図る際に、ICTを活用させる。
 - 教員と児童生徒間または児童生徒間における、情報や意見の共有を行う方法の一つとしてICTを活用する。

3 個に応じた指導の充実

- (1) TTや少人数指導などきめ細やかな指導の充実
 - * TT（ティーム・ティーチング）…1教室に複数の教師が入り、分担・協力して指導する方法
 - * 少人数指導…学級よりも少人数の集団で授業を行う方法
- (2) 各種補助員・支援員等の配置

個に応じた指導を充実させるため、各校に教育指導補助員、学校図書館教育補助員、ICT 支援員、各小学校に理科支援員、必要に応じて日本語指導員を配置する。

保護者の皆様へ

今回の調査で、「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。」（複数回答可）という質問に対して、小学校では8割以上の児童が「家族に聞く」、6割以上の児童が「自分で調べる」「友達に聞く」を選び、中学校では4割以上の生徒が「家族に聞く」、7割以上の生徒が「自分で調べる」となっておりました。家庭学習において、家族の協力も大切になっております。保護者の皆様には、学校での教育活動にご理解、ご協力をいただきながら、学習時間の確保を図るとともに、お子様と過ごす時間を大切にさせていただきますようより一層のご協力をお願いいたします。

令和4年度 桶川市教育委員会 学校教育 指導の重点

桶川市教育行政基本方針の基本理念 「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」

- 基本目標**
- I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実
 - II 豊かな心の育成と人権意識の高揚
 - III 健やかな体の育成
 - IV 家庭・地域の教育力の向上
 - V 生涯にわたる学びとスポーツの支援
 - VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

学校経営
 ○学校教育目標の実現を目指した全教職員が相互に協力する教育活動を積極的に関与する
 小・中学校9年間を見通した一貫性のある学校教育の推進(I)
 学習環境の整備・充実(I)
 教職員の資質能力の向上(I)
 学校運営協議会・学校応援団の充実(IV)

- 学校教育目標の具現化
- 地域や各学校、児童生徒の実態に即した教育課題の明示とそれを解決するための創意工夫のある教育課程の編成と実施、評価
- 全教職員の協力体制の確立
- 研修の充実と指導力の向上
- **学校運営協議会を通じた地域社会との積極的な連携・協力**

学級経営
 ○児童生徒理解を深め、信頼関係や好ましい人間関係を育てるとともに、魅力ある学級づくり努める

- 学校の教育目標の実現を目指し、創意工夫を生かした学級経営の推進
- 児童生徒一人一人が様々な活動に自主的、実践的に取り組む学級経営の推進
- 児童生徒の発達を踏まえた計画的・継続的な評価の実践
- 児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす指導の工夫
- 特別な教育的支援を必要とする児童生徒一人一人に応じた指導や支援の実践

学習指導
 ○生きる力を育む授業の創造を目指す
 主体的・対話的で深い学びの実現の推進(I)
 ICTを効果的に活用した授業実践(I)

- **各教科・領域における指導と評価の一体化**
- 児童生徒一人一人に応じた指導の充実
- **外国語教育・ICT教育の推進**
- **各種調査(学力・学習状況調査等)結果の分析を活用した学力向上の取組の充実**

生徒指導
 ○心豊かな児童生徒の育成を目指す
 心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の推進(II)
 いじめ・不登校の未然防止の推進(II)

- 基本的な生活習慣の育成と生き甲斐のある学校生活の実現
- **全教職員の共通理解に基づいた校内生徒指導体制の確立と積極的な生徒指導の推進**
- 小・中連携を始め、家庭・地域社会、諸機関との連携の推進

進路指導・キャリア教育
 ○自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、進路指導・キャリア教育の充実を図る

- 全教職員による協力的指導体制の整備と系統的・組織的なキャリア教育の推進
- キャリア形成を促進するキャリア・パスポートの活用と蓄積の研究
- 児童生徒理解に基づく進路指導・キャリア教育の推進

道徳教育
 ○自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する
 豊かな心を育む教育の推進(II)
 道徳科における指導と評価の一体化の推進(II)

- 道徳教育の重点目標を明確にした全体計画の活用による、意図的、計画的な教育活動の充実
- **「規律ある態度」をはじめとする基本的な生活習慣や社会生活上のきまり、基本的なモラルの育成に繋がる指導の充実**
- 道徳科を要とし、教育活動全体を通じた関連的、契机的な指導の充実

総合的な学習の時間
 ○自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する

- 地域や学校、児童生徒の実態等に応じた全体計画の作成・改善
- 指導と評価の計画の改善・充実に向けた組織的・計画的な取組
- 保護者や地域の人々の教育力を活用した体制づくりの推進

特別活動
 ○様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する。

- 学校の創意工夫を生かした指導・評価計画の活用と改善
- 学級や学校での生活をよりよくするための学級活動の推進
- 学校行事の(感染症対策を含む)実施方法の検討と精選

学校教育相談
 ○児童生徒が抱える悩みや不安などを解消するために本人又は保護者などへの支援を通じて、よりよい人格の形成を図る
 いじめ・不登校の未然防止の推進(II)

- **学校教育相談体制の充実(さわやか相談員、スマイル相談員、SC、SSWの配置、教育センターの運営、遠く応援教室の運営、特別支援教育との連携)**
- 学校教育相談の積極的推進(不登校児童生徒の登校支援)
- 相談機関等との連携
- 各種調査結果の分析を活用した児童生徒理解の推進

体育
 ○健やかな体と豊かな心をもった児童生徒を育成する
 体力向上を目指した学校体育の充実(III)
 特別の専門的指導方法を取り入れた体育授業の推進(III)

- **心と体を一体としてとらえ、児童生徒一人一人が運動の楽しさや喜びを味わえる指導の実践**
- 体力向上を目指した体育的活動の実践
- 体育施設・設備の整備と事故防止の徹底

健康教育
 ○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を主体的に実践できる児童生徒を育成する
 食育を通じた健康教育の充実(III)
 家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進(III)

- 健康の大切さを認識し、健康課題を解決するための資質・能力の育成
- 自他の生命を尊重し、自他の安全に配慮した行動できる資質・能力の育成
- **感染症対策の徹底と心のケアの推進**
- 家庭・地域社会・関係機関等と連携した取組の実践
- 食に関する正しい知識と望ましい食習慣の形成

人権教育
 ○人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする児童生徒を育成する
 学校教育における人権教育の推進(II)

- 全教職員の共通理解に基づく推進体制の確立
- **児童生徒の発達段階を踏まえた全体計画や指導計画に基づく着実な実践**
- 指導内容・指導方法の工夫・改善と「人権感覚育成プログラム」の活用

特別支援教育
 ○個別の教育的ニーズを把握し、一人一人の可能性を伸ばす教育を推進する
 ○社会の形成を目指した教育を推進する
 共生社会を支える特別支援教育の推進(I)

- 適切な就学相談の充実
- 児童生徒一人一人の実態に応じた教育的支援の充実(こたばの教室・遠隔指導教室)
- **特別支援教育推進を図る校内支援体制の充実**
- 研修の充実と指導力の向上
- 交流及び共同学習の実施

国際理解教育
 ○グローバル化に対応する人材の育成を推進する

- 外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の向上
- 外国人児童生徒、帰国児童生徒の支援
- 日本や地域の伝統や文化等の認識を深める教育の推進

情報教育
 ○主体的に生きる力を育むため、学習活動の中でのICTの効果的な活用により、子供達の情報活用能力の育成をする
 時代の変化に対応する教育の推進(I)

- 各教科等の特質に応じた、適切な学習場面でのICT活用の推進
- **障一人取り残すことのない個別最適化された学びを支援するICT活用の推進**
- 児童生徒が情報社会での行動に責任を持ち、情報を正しく安全に利用するための情報モラル教育の推進

環境教育
 ○環境を大切にするとともに主体的に行動できる能力や態度を育てる

- 全体計画・年間計画に基づいた指導の充実
- 持続可能な社会の実現のため、環境を守ろうとする心と態度の育成
- 地域の自然環境や社会環境等を生かした環境教育の推進

ボランティア・福祉教育
 ○社会福祉への関心と理解を深め、互いに支え合い、豊かに生きていこうとする心と態度を身に付ける

- 発達段階に即したボランティア活動・福祉体験の実践
- 学校や地域の実態に即したボランティア活動・福祉教育の推進

男女平等教育
 ○児童生徒一人一人が個性や能力を発揮して、自らの意思により行動できるよう、男女平等の意識を高める教育を推進する

- 教育活動全体を通じた組織的・継続的な指導の推進
- 発達段階に応じた指導内容・指導方法の工夫・改善
- 家庭や地域社会との連携

学校図書館教育
 ○学校図書館の利用に必要な基礎的な知識や方法の習得及び自発的な学習の態度の育成に努める

- 学校図書館の利用を位置付けた指導計画の作成
- 学校図書館を利用した学習の充実、情報活用能力の育成
- 市内各図書館と連携した子供読書活動の推進

生きる力を育み
未来へはばたく
桶川の教育



令和4年度桶川市の教育

桶川教育の3本柱

確かな学力



- ◆「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と各教科等における「指導と評価の一体化」の推進
- ◆一人一台端末等のICTを効果的に活用した授業実践
- ◆T.T.や教育指導補助員の活用による個に応じた、きめ細やかな授業支援の推進

豊かな心



- ◆道徳科を要とした道徳教育の充実
- ◆学校における人権教育の推進
- ◆心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の推進
- ◆教育相談の充実といじめ・不登校の未然防止のための組織的取組の推進
- ◆共生社会の形成を目指した特別支援教育の推進

健やかな体



- ◆体力向上を目指した学校体育の充実
- ◆プール民間委託等外部の専門的な指導方法を取り入れた体育授業の推進
- ◆食育を通じた健康教育の推進
- ◆家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進

◇生徒指導重点校

桶川東中・桶川西中

◇コミュニティ・スクールの推進 全小・中学校

◇プール民間委託モデル校

桶川東中・桶川西中

桶川市教育委員会・桶川市教育研究会委嘱研究 本年度本発表

- ・日出谷小 10月28日(金)【学力向上】教師がときめき 児童がきらめく 授業づくり
- ・朝日小 11月10日(木)【特別活動】互いの思いを認め合い、自信をもって表現する朝日っ子～気持ちを伝え合う力を育てる特別活動の工夫・改善～
- ・桶川東中 11月18日(金)【学習指導】「できた、わかった、楽しい」を味わわせる学習指導の質的改善～主体的・対話的で深い学びを通して～
- ・加納中 10月25日(火)【道徳教育】対話を通してより良い生き方を考えることができる生徒の育成